



ヘルスケア歯科診療について藤木が伝えたいこと 2024 ウィステリアの誕生と私が使い続けている理由について



藤木省三（神戸市開業）

成人の長期メインテナンスについて（2）

最終回は成人の長期メインテナンスの結果についてお話しします。自分たちが歯周治療を行った結果がどうなっているのか、皆さんも興味があるのではないでしょうか。ここでは、次の条件で検索しました（2023年12月現在）。

- ・再評価から最終の歯周組織検査までの期間を15年以上
- ・歯周病進行度：中等度

結果を初診時の年齢別に集計すると図1のようになりました。この中の初診時年齢が50歳以上60歳未満の56人について、長期メインテナンスの結果を喪失歯数で評価してみました。図2は初診からの喪失歯数別の人数分布です。喪失歯数が「0」の患者は56人中17人（30.4%）とそれほど多くはありません。ちょっとがっかりしそうになりますが、知りたいのは、自分たちが行ったメインテナンスの効果です。

〈知りたいのは何か？〉

そこで、メインテナンス中の歯の喪失について調べたのが図3です。喪失歯数が「0」の患者は56人中23人（41.1%）に増えました。やれやれです（笑）。しかし、よく考えると歯の破折や根尖病変など歯周治療とメインテナンスでは防ぐことができない原因によって失った歯も含まれています。先ほども書きましたが、知りたいのは歯周炎をどこまでコントロールできているかです。

ウィステリアでは抜歯原因も入力していますので、歯周炎の悪化による歯の喪失を調べてみました（図4）。その結果は56人中41人（73.2%）が、約25年間に歯周炎の悪化による歯の喪失がなかったということです。初診時中等度の歯周炎でもそれくらいの効果ができることがわかりました。このように、データを入力しておくことで、自分たちの絶え間ない努力の結果を数字として知ることができます。

〈すべての患者のデータから見えてくること〉

ここで満足してホッとしたいところですが、反省点も浮かびあがってきます。同じようにメインテナンスをしているのに、6本も歯周炎が悪化して抜歯になった患者がいます。なぜなんだろう？

そこで、喫煙経験がない患者とある患者を比較したのが図5、6です。実は、6本抜歯になった患者だけが最後まで禁煙できませ

検索条件				
・再評価から最終歯周精密検査まで15年以上				
・初診時歯周病進行度：中等度				
初診時年齢	30-39歳（17人）	40-49歳（45人）	50-59歳（56人）	60-69歳（48人）
初診時平均年齢	36.5	44.9	54.5	62.9
最新検査時平均年齢	63.3	72.0	79.5	84.1
初診時残存歯数	26.8	25.8	25.6	24.5
最新残存歯数	24.6	23.7	23.6	21.8
初診からの喪失歯数	2.1	2.1	2.0	2.8

図1 成人患者のメインテナンスの効果（15年以上）

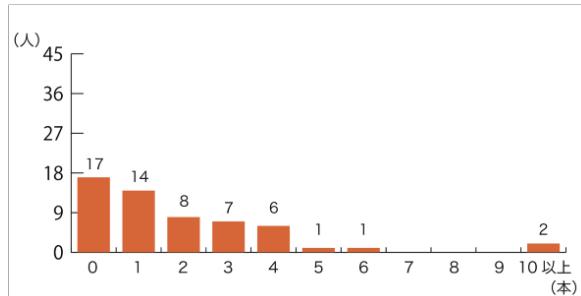


図2 初診からの喪失歯数別の人数分布

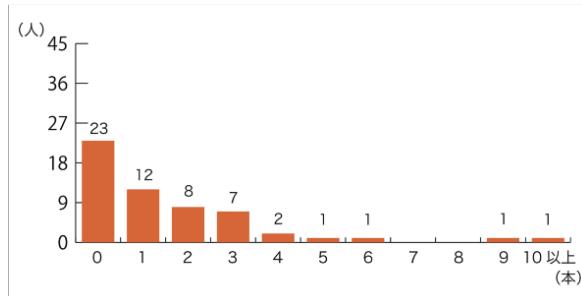
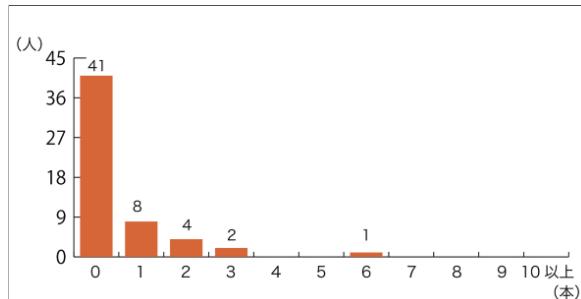


図3 メインテナンス中の喪失歯数別の人数分布

図4 メインテナンス中の喪失歯数別の人数分布
(歯周炎の悪化によるもの)

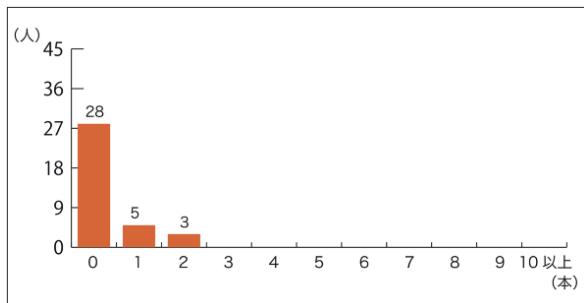


図 5 メインテナス中の喪失歯数別の人数分布
(歯周炎の悪化によるもの：喫煙経験なし)

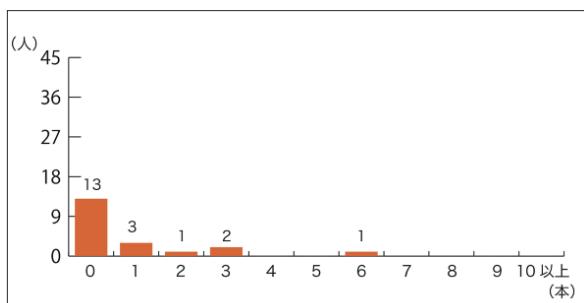


図 6 メインテナス中の喪失歯数別の人数分布
(歯周炎の悪化によるもの：喫煙経験あり)

んでした。おそらく喫煙の影響もあったのだと思います。すべての患者のデータを入力しておくことで、疾患そのものの本質も見えてくることがあります。

〈まとめ〉

5回にわたって、「どうしてウイステリアにデータを入れなければならないのですか?」という質問に私なりの答えを書きました。まとめると、次のようにになります。

「知りたいことを知るため！」

「診療室の問題点を知るためにには、自分のデータを持っていなくてはわからないし、解決もできない！」

「診療室の総合力を知ったり、疾患の全体像を理解できる！」

結論は、データを残さないと、なにも始まらない！

